2008年度決算
および
新・中期経営計画『MGC Will 2011』
説明会

2009年 5月11日

三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長	酒井　和夫
天然ガス系化学品カンパニープレジデント	山崎　慶重
特殊機能材カンパニープレジデント	宮坂　一博
芳香族化学品カンパニープレジデント	塚本　耕三
経営企画部・広報IR部担当	上石　邦明
機能化学品カンパニープレジデント	倉井　敏磨
財務経理センター長	杉田　克彦

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2008年度決算
2. 新・中期経営計画

   『MGC Will 2011』
3. 質疑応答

配付資料

- スライド コピー
- 参考資料
- 2008年度決算短信
- ニュース クリッピング集
- アンケート用紙

連結　2008年度実績

【単位：億円】

	2008年度	2007年度	増 減	増 減 率
売上高	4,476	5,193	▲ 717	▲ 13.8%
営業利益	▲ 31	474	▲ 505	–
（持分法利益）	（147）	（213）	（▲ 66）	▲ 31.0%
経常利益	70	618	▲ 548	▲ 88.7%
税前利益	53	561	▲ 508	▲ 90.6%
当期純利益	70	402	▲ 332	▲ 82.6%

D/Eレシオ	0.66	0.50	0.16	32.0%
ROA*	1.2%	10.2%	▲ 9.0%	▲ 88.2%
ROE	2.5%	13.7%	▲ 11.2%	▲ 81.8%
1株当たり当期純利益	15.3円/株	87.0円/株	▲71.7円/株	▲ 82.4%
年間配当金	16.0円/株	16.0円/株	–	–

＊経常利益ベース

- 販売数量は、下期の需要急減の影響により全般に大きく減少。
- 販売価格は、上期に原燃料価格の高騰を受けて上昇するも、下期の商品市況急落により大幅低下。
- 単体売上高は▲628億円。
  （数量要因：▲516億、価格要因：▲112億）
- 販売数量減少に加え、償却費・修繕費などの固定費増加や円高、更に棚卸資産の簿価切り下げの影響（67億円）もあり、営業赤字に転落。
- 持分法利益は、三菱エンジニアリングプラスチックスの業績悪化などで減益。
- 特別損益は40億円の改善。
- 年間配当金は前期と同じ16円。

※　本頁以下に記載されている数値は、単位未満四捨五入で表記しております。

セグメント別 連結 2008年度実績

【単位：億円】

	2008年度			2007年度			増　減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売 上 高	2,692	1,784	4,476	2,506	2,687	5,193	186	▲ 903	▲ 717
天然ガス系化学品	880	629	1,509	714	849	1,563	166	▲ 221	▲ 55
芳香族化学品	793	428	1,221	714	738	1,452	79	▲ 310	▲ 231
機能化学品	726	538	1,264	744	795	1,539	▲ 18	▲ 257	▲ 275
特殊機能材	357	224	581	397	371	768	▲ 40	▲ 148	▲ 188
その他	6	5	11	5	6	11	1	▲ 1	0
消去または全社	▲ 69	▲ 40	▲ 109	▲ 68	▲ 72	▲ 140	▲ 1	32	31
営 業 利 益	96	▲ 127	▲ 31	226	248	474	▲ 130	▲ 375	▲ 505
天然ガス系化学品	9	▲ 58	▲ 49	4	29	33	5	▲ 87	▲ 82
芳香族化学品	15	▲ 89	▲ 74	65	56	121	▲ 50	▲ 144	▲ 194
機能化学品	31	33	64	69	93	162	▲ 38	▲ 60	▲ 98
特殊機能材	42	▲ 19	23	86	66	152	▲ 44	▲ 85	▲ 129
その他	3	3	6	2	3	5	1	0	1
消去または全社	▲ 4	3	▲ 1	0	1	1	▲ 4	2	▲ 2

（注）2008年度は、収益性の低下による棚卸資産の簿価切り下げにより、天然ガス系化学品：10億円、芳香族化学品：33億円、機能化学品：10億円、特殊機能材：13億円の計67億円を営業費用に計上しています。

連結　2008年度 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

	2008年度	2007年度	増減
営業外損益	**101**	**144**	**▲ 43**
持分法投資損益	147	213	▲ 66
金融収支	▲ 4	▲ 1	▲ 3
為替損益	▲ 13	▲ 37	24
その他	▲ 29	▲ 31	1

特別利益	**3**	**16**	**▲ 13**
補助金収入	3	－	3
その他	－	16	▲ 16
特別損失	**20**	**73**	**53**
貸倒引当金繰入額	11	－	▲ 11
事故関連費用	4	－	▲ 4
固定資産処分損	2	2	▲ 0
有価証券評価損	2	－	▲ 2
その他	0	71	71

（注）本表の増減は対損益増減を示しております。

- 貸倒引当金繰入額は、土壌汚染訴訟に関連して公害防止事業費11億円を計上

連結　2008年度 貸借対照表

【単位：億円】

	2009年3月末	2008年3月末	増減	メ　モ
流動資産	**2,153**	**2,687**	**▲ 534**	
現預金	232	303	▲ 71	
売掛債権	745	1,397	▲ 652	減少理由：売上高の減少など
棚卸資産	653	702	▲ 49	
その他	522	284	238	
固定資産	**3,153**	**3,327**	**▲ 174**	設備投資：351億円、連結子会社の増加：53億円 減価償却：△289億円、為替換算影響：△46億円 除却等：△21億円
有形・無形固定資産	1,695	1,647	48	
投資有価証券	1,215	1,539	▲ 324	減少理由：円高による為替換算影響、期末時価下落など
その他の資産	242	141	101	
資産合計	**5,306**	**6,014**	**▲ 708**	
負債	**2,585**	**2,894**	**▲ 309**	
買掛債務	403	851	▲ 448	減少理由：原材料価格・仕入価格の下落、購入数量の減少等
有利子負債	1,746	1,506	240	
その他	436	536	▲ 100	
純資産	**2,721**	**3,120**	**▲ 399**	自己資本比率　2009年3月末　49.9% 2008年3月末　50.3%
株主資本	2,917	2,953	▲ 36	
評価・換算差額等	▲ 268	70	▲ 338	減少理由：円高による為替換算影響、期末時価下落など
少数株主持分	72	97	▲ 25	
負債・資本合計	**5,306**	**6,014**	**▲ 708**	

連結　2008年度 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2008年度	2007年度	増 減
営業キャッシュフロー　(a)	490	404	86
税前利益	53	561	▲ 508
減価償却費	289	245	44
持分法投資損益	▲ 147	▲ 213	66
持分法適用会社からの配当金受取額	154	－	154
運転資金等	258	▲ 52	310
法人税等支払額	▲ 117	▲ 137	20
投資キャッシュフロー　(b)	▲ 413	▲ 209	▲ 203
設備資金	▲ 369	▲ 327	▲ 42
投融資資金等	▲ 43	118	▲ 161
財務キャッシュフロー	115	▲ 223	338
借入金・社債増減	195	▲ 142	337
配当金支払	▲ 79	▲ 81	1
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 39	▲ 18	▲ 20
現金及び現金同等物の増減	154	▲ 46	201
連結追加・合併による増加額	4	6	▲ 2
現金及び現金同等物の期末残高	531	372	158

- 2008年度より、持分法適用会社からの配当金受取額について、従来の投資キャッシュフローから営業キャッシュフローに表示区分を変更。なお、2007年度における持分法適用会社からの配当金受取額は181億円。

天然ガス系化学品

【単位：億円】

	2007年度（実績）			2008年度（実績）			2009年度（予想）		
	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期
売 上 高	714	849	1,563	880	629	1,509	550	610	1,160
営業利益	4	29	33	9	▲ 58	▲ 49	▲ 25	▲ 0	▲ 25

2008年度（実績）

➢ **メタノール**

下期の世界需要減少で市況が急落、平均販売価格が前期を下回り、減収減益。
持分法利益も円高の影響などで減益。

➢ **メタノール･アンモニア系化学品**

原料メタノール下落によりマージン改善するも、新潟工場の修繕費や新規ガス田試掘による探鉱費の増加に加え、下期の販売数量減少により、減収減益。

➢ **酵素･補酵素類**

コエンザイムQ10は、平均販売価格が前期を下回るも、販売数量増加と固定費減少により、増益。

➢ **天然ｶﾞｽ･ｴﾈﾙｷﾞｰ販売**

上期までの原油価格の上昇により増益。

2009年度（予想）

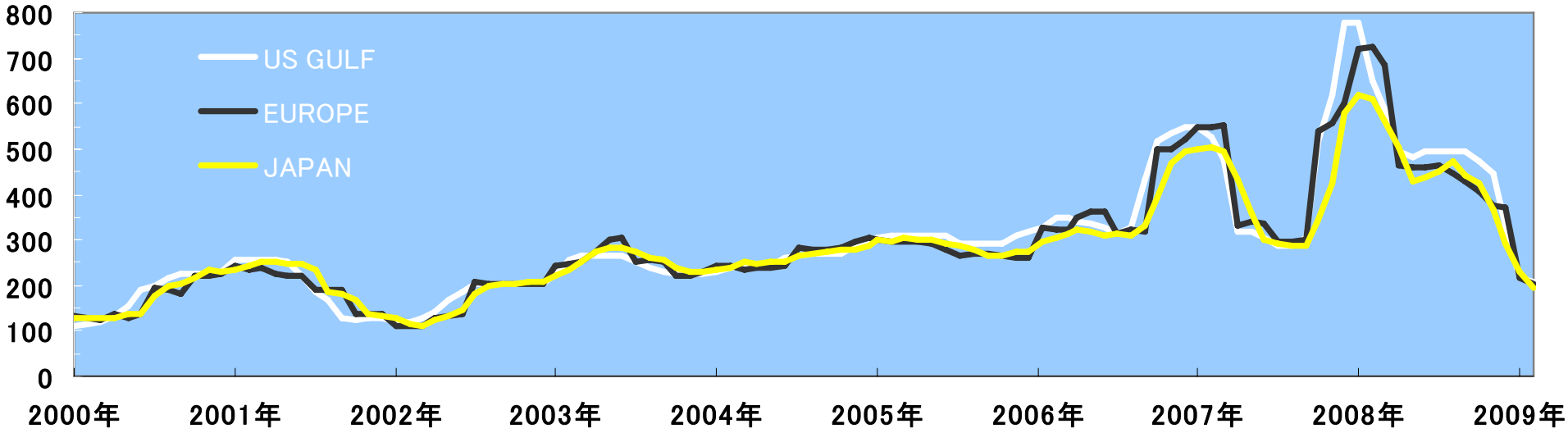
市況は、前期実績の370ドルに対し、200ドル程度を想定し、減収を見込む。
持分法利益は、市況下落により、前期の1/3に減少する見込み。

原料メタノール価格が低下するも、償却費の増加などもあり、赤字にとどまる見通し。

販売数量の増加により、前期を上回る見込み。

原油価格の下落により大幅減益を想定。

天然ガス系化学品　メタノール価格の推移



（2009年の展望）

需給動向：需要面は、中国の燃料用途需要は底堅いものの、世界全体としては弱い回復基調にとどまる。
供給面は、マレーシアのペトロナス（170万トン）が3月に稼動開始、イラン（170万トン）の稼動も控えており、
更なる需給緩和が懸念される。現在大部分が停止している中国の石炭原料プラントは、
市況の上下に応じて再稼動と停止を繰り返すと想定。

⇒ 価格動向：中国の石炭原料プラントが調整弁となり、市況は200～250ドルの範囲で変動すると想定。

芳香族化学品

【単位：億円】

	2007年度（実績）			2008年度（実績）			2009年度（予想）		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	714	738	1,452	793	428	1,221	478	515	993
営業利益	65	56	121	15	▲ 89	▲ 74	1	21	23

2008年度（実績）

➢メタキシレン系製品

メタキシレンジアミン（MXDA）やMXナイロンは、販売数量増加するも、MXDAの償却負担の増加や円高の影響で減益。

高純度イソフタル酸は、供給過剰による販売価格の下落に加え、円高や販売数量急減により、大幅減収減益。

➢ 特殊芳香族製品

芳香族アルデヒドやピロメリット酸・無水ピロメリット酸などは、販売数量の減少に加え、円高の影響もあり、減収減益。

※2008年度は、収益性の低下による棚卸資産の簿価切り下げにより、原料メタキシレンを中心として33億円を営業費用に計上。

2009年度（予想）

MXDA、MXナイロンは、販売数量増加や償却負担の減少、原料価格の下落などにより増益を見込む。

高純度イソフタル酸は、原料価格の下落と販売価格の是正による採算改善で、営業黒字に回復することを想定。

芳香族アルデヒド、ピロメリット酸・無水ピロメリット酸とも、販売数量増加により増収増益の見通し。

機 能 化 学 品

【単位：億円】

	2007年度（実績）			2008年度（実績）			2009年度（予想）		
	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期
売 上 高	744	795	1,539	726	538	1,264	557	611	1,168
営業利益	69	93	162	31	33	64	23	36	59

2008年度（実績）

➢ **工業用無機薬品**

過酸化水素は、販売価格を是正するも、下期の販売数量の大幅減少により、減収減益。

➢ **電子工業用薬品**

上期は堅調に推移するも、下期の販売数量急減により、減収減益。

➢ **ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾌﾟﾗｽﾁｯｸｽ**

POMはタイ生産子会社が比較的堅調な一方、PCは下期に販売数量が大幅減少。PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向けフィルムの販売数量の減少で、大幅減収減益。

2009年度（予想）

過酸化水素は、販売数量は若干の増加に止まるも、前期の販売価格是正効果が通年で寄与し、収益改善を想定。

販売数量の減少と償却費の増加により減益を見込む。

POMは販売数量減少と販売価格下落により、PCは販売数量が一部回復するも販売価格の下落により、減収減益を想定。

PCシート・フィルムは、液晶表示向けのハードコートシートの販売数量が増加し、増収増益の見通し。

特 殊 機 能 材

【単位：億円】

	2007年度（実績）			2008年度（実績）			2009年度（予想）		
	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期	上 期	下 期	通 期
売 上 高	397	371	768	357	224	581	272	328	600
営業利益	86	66	152	42	▲ 19	23	1	23	25

2008年度（実績）

➢ **電子材料**

BT材料は、期初から不振であった高機能携帯電話やメモリー向け半導体パッケージ需要が下期に急減、償却負担の増加もあり大幅減収減益。LEシートも減収減益。

日本サーキット工業はCSP製品の販売数量減少や円高などで大幅減収減益。

➢ **脱酸素剤**

国内食品分野の競争が厳しい中、堅調に推移し前期並み。

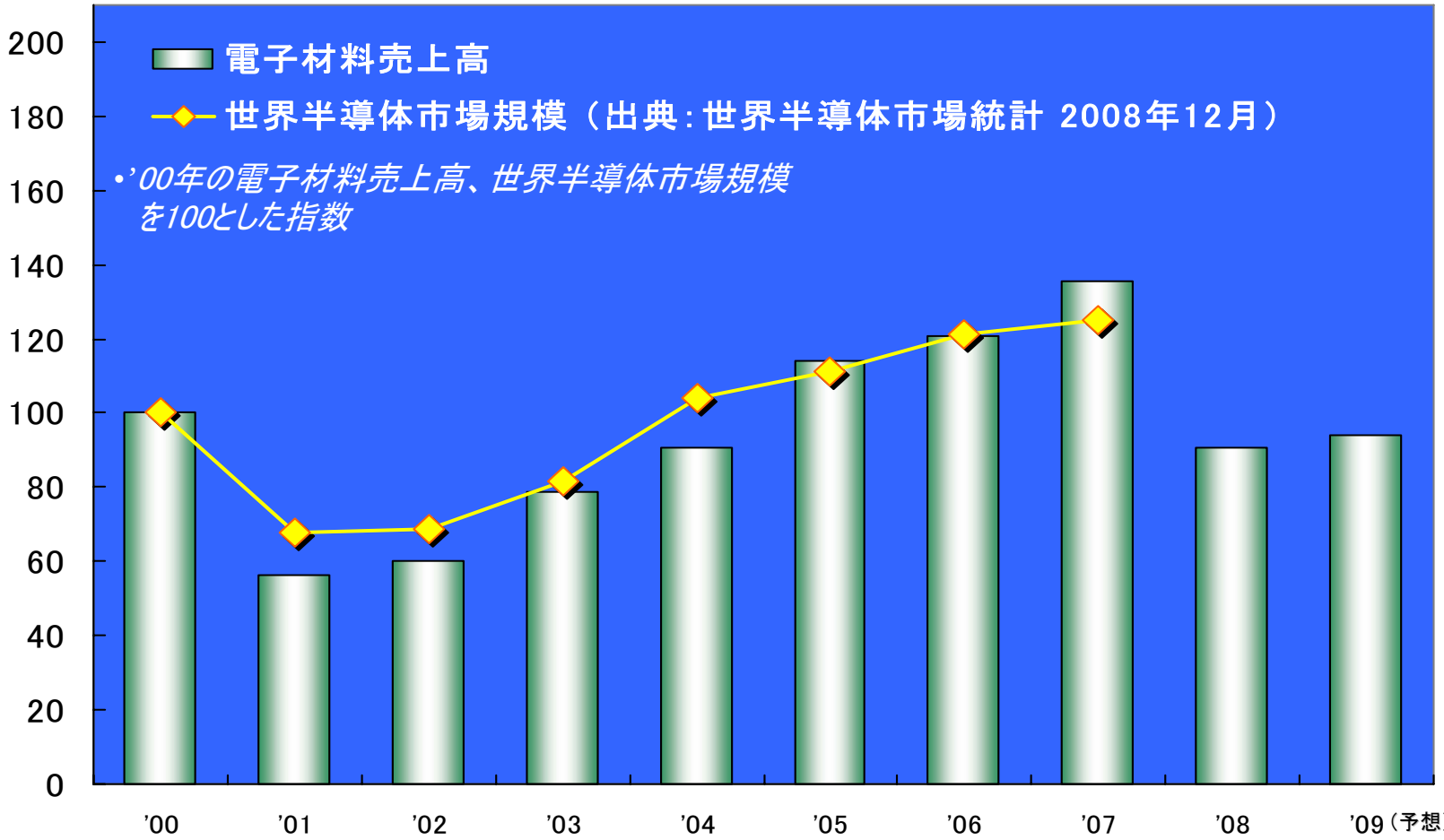
2009年度（予想）

BT材料は、販売数量は前期並みを見込むものの、半導体市況の低迷や円高、競争激化を背景として販売価格の下落を見込む。高性能エポキシ材料とLEシートは、販売数量増加を見込む。

日本サーキット工業は、高付加価値品の販売数量回復と固定費削減などによる改善を想定。

前年と同様の厳しい競争環境が続く。

特殊機能材　電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



電子材料売上高	100.0	56.4	60.2	78.9	90.6	114.3	120.9	135.4	90.9	93.9
世界半導体市場規模	100.0	68.0	68.9	81.4	104.2	111.3	121.2	125.1	—	—

連結 2009年度予想

【単位：億円】

	2009年度（予想）	2008年度（実績）	増 減	増 減 率
売上高	3,800	4,476	▲ 676	▲15.1%
営業利益	80	▲ 31	111	–
（持分法利益）	（60）	（147）	（▲ 87）	▲59.2%
経常利益	70	70	0	0.4%
税前利益	70	53	17	32.7%
当期純利益	60	70	▲ 10	▲ 14.5%

D/Eレシオ	0.64	0.66	▲ 0.02	▲ 3.0%
ROA*	1.3%	1.2%	0.1%	8.3%
ROE	2.3%	2.5%	▲ 0.2%	▲ 8.0%
1株当たり当期純利益	13.3円/株	15.3円/株	▲ 2.0円/株	▲ 13.1%
年間配当金	12.0円/株	16.0円/株	▲ 4.0円/株	▲ 25.0%

＊経常利益ベース

- 為替前提　90¥/US$。
- 販売数量は前期並みを想定するが、販売価格の大幅下落により、売上高は676億円減少の3,800億円を見込む。
- 営業利益は、特殊芳香族化学品、イソフタル酸、ポリカーボネートシート・フィルムなどの採算改善や、棚卸資産の簿価切り下げの影響の解消もあり、111億円改善の80億円。
- 持分法利益は、海外メタノール会社を中心に87億円減少し、経常利益は前期並みの70億円。
- 特別損益は17億円改善。
- 配当金は中間・期末とも6円を予定。

セグメント別 連結 2009年度予想

【単位：億円】

	2009年度（予想）			2008年度（実績）			増　減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売 上 高	1,800	2,000	3,800	2,692	1,784	4,476	▲ 892	216	▲ 676
天然ガス系化学品	550	610	1,160	880	629	1,509	▲ 330	▲ 19	▲ 348
芳香族化学品	478	515	993	793	428	1,221	▲ 315	87	▲ 227
機能化学品	557	611	1,168	726	538	1,264	▲ 169	73	▲ 97
特殊機能材	272	328	600	357	224	581	▲ 85	104	20
その他	5	6	11	6	5	11	▲ 1	1	0
消去または全社	▲ 63	▲ 70	▲ 133	▲ 69	▲ 40	▲ 109	6	▲ 30	▲ 24
営 業 利 益	0	80	80	96	▲ 127	▲ 31	▲ 96	207	111
天然ガス系化学品	▲ 25	▲ 0	▲ 25	9	▲ 58	▲ 49	▲ 34	58	23
芳香族化学品	1	21	23	15	▲ 89	▲ 74	▲ 14	110	96
機能化学品	23	36	59	31	33	64	▲ 8	3	▲ 5
特殊機能材	1	23	25	42	▲ 19	23	▲ 41	42	2
その他	1	2	3	3	3	6	▲ 2	▲ 1	▲ 3
消去または全社	▲ 1	▲ 3	▲ 4	▲ 4	3	▲ 1	3	▲ 6	▲ 3

（参考）

持 分 法 利 益	20	40	60	108	39	147	▲ 88	1	▲ 87

配当の状況

		2009年度（予想）	2008年度（実績）	2007年度（実績）
1株当り配当金	第2四半期末	6.0円	8.0 円	8.0 円
	期　末	6.0円	8.0 円	8.0 円
	合　計	12.0円	16.0 円	16.0 円
配当金総額	第2四半期末	27億円	37億円	37億円
	期　末	27億円	36億円	37億円
	合　計	54億円	73億円	74億円
1株当り当期純利益	期　末	13円27銭	15円30銭	87円01銭
配当性向（連結）	合　計	90.4%	104.6%	18.4 %

新中期経営計画

『MGC　Will　2011』

2009年5月11日

三菱ガス化学株式会社

前中期計画「協創2008」の総括

▶成長拡大へ軸足をシフト
▶国内外において、減価償却を超える積極投資を実行
▶ 2006～2007年度　過去最高益を更新し、計画を達成
▶最終年度（2008年度）は一転して、世界同時不況の影響を受け、成長が失速

	「協創2008」目標値	2006年度	2007年度	2008年度
売上高		4,826	5,193	4,476
営業利益		422	474	−31
経常利益	550	617	618	70
当期純利益		400	402	70
（億円）	9.0以上			
ROA（%）総資産経常利益率		10.5	10.2	1.2
D/Eレシオ	0.6以下	0.58	0.50	0.66

▶成長するアジア市場におけるプレゼンスの強化
▶重点分野に対する経営資源の集中投入

【国内外製造拠点の主な新増設】
- メタノール(サウジアラビア、ベネズエラ、ブルネイ)
- アミン類、過酸化水素（中国）
- 電子工業用薬品（韓国、台湾、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）
- メタキシレンジアミン（水島）、高純度イソフタル酸（松山）
- ポリカーボネート（鹿島、タイ）、電子材料（白河、米沢）　等

【事業再編、合理化、撤退】
- パラキシレン、汎用エポキシ、26キシレノール等

▶新規製品群の早期育成

【主な新規製品プラント】
アダマンタン誘導体、オリゴフェニレンエーテル（四日市）、特殊アミノ酸、燃料用ジメチルエーテル（新潟）、高耐熱性無色透明ポリイミドフィルム（平塚）　等
- シート・フィルム東京開発センター開設

▶経営基盤の強化
- グループ経営拡充のための各種体制整備
- アクシデントゼロ(AZ)プロジェクト発足
- 中国上海に販売会社設立

『2021年　MGCグループのありたい姿』の設定

►不透明感が増し、且つグローバル競争が激化する時代に、数年先のみを見据えた経営計画では、力強い成長は望めない。

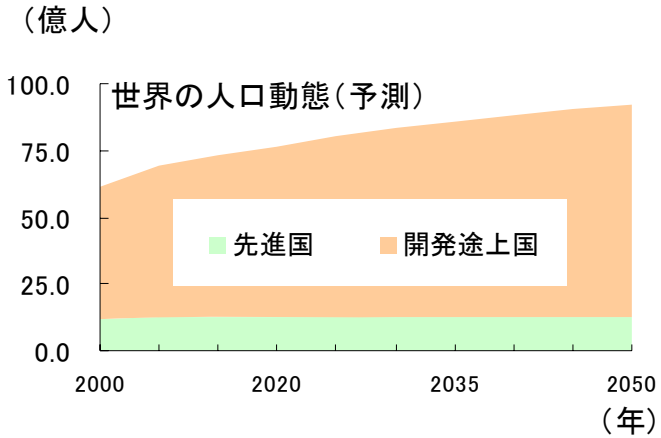
►長期的視野から、社会全体や取り巻く環境の変化について、グループ全体で考える。

►そこからMGCグループの『ありたい姿』を意志を持って描くこととした。

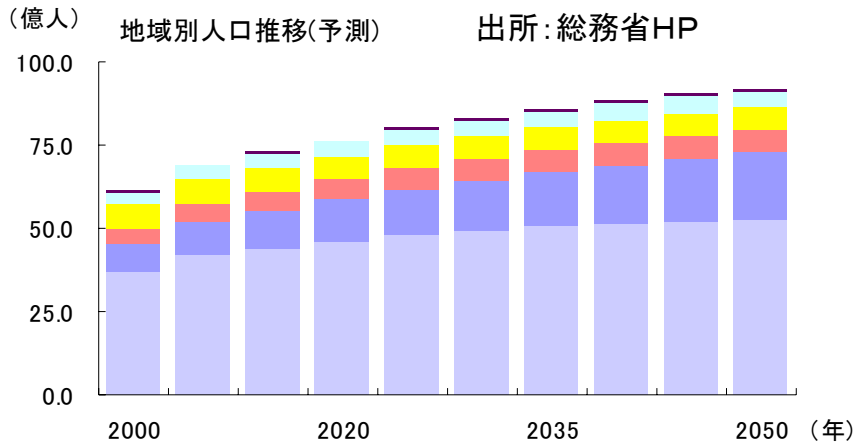
化学工業～成長への期待～

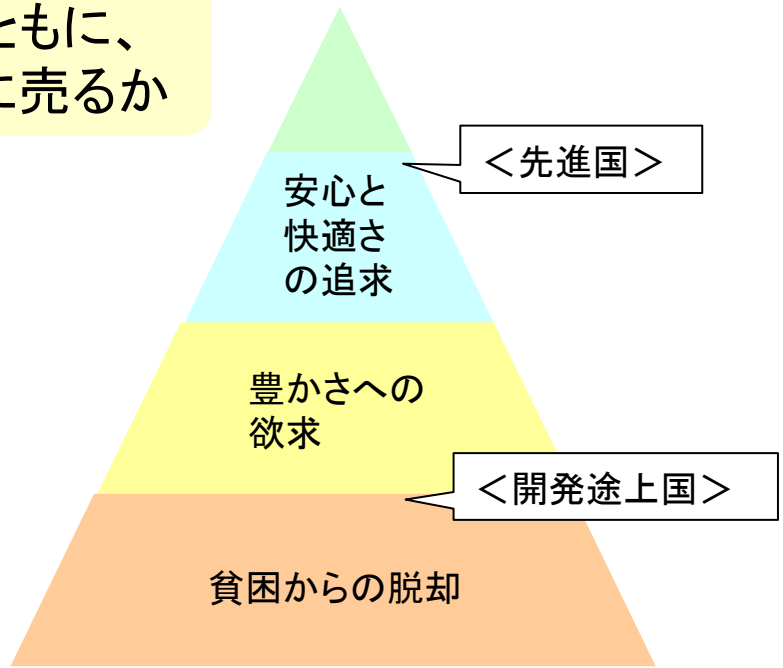
- 化学工業は、人間社会の発展を支える基幹産業である。
- 世界の人口が拡大し続け、人々が豊かさと快適さを追い求める限り、ビジネスチャンスは存在する。

- 発展途上地域の人々は、貧困からの脱却と豊かさを求め、先進国の人々は、より安心で快適な暮しを求める。
- 社会のインフラとなる基礎素材は人口増加地域で、高付加価値素材は少子高齢化（富裕）地域で、共に成長が期待できる。



どこで、誰とともに、
何を造り、誰に売るか





『2021年　MGCグループのありたい姿』

＊“2021年”はMGCの創立50周年目

- CSRの実践により、社会から高い信認を得続ける企業グループ
- 売上高1兆円を超え、「Global Top 30」へ
- 「真の高収益・研究開発型企業集団」の実現

新中計の位置付け

「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指す。

2021年 ありたい姿
～ Global Top 30へ ～

売上高1兆円を突破

※ 2021年はMGC創立50周年

協創2008
(06～08年度)

- 成長拡大へ軸足をシフト
- 国内外において積極投資の実行
- 06＆07年度　過去最高益を更新
- 最終年度（08年度）は、世界同時不況の影響を受け成長が失速

MGC Will 2011
(09～11年度)

『2021年 ありたい姿』を実現するための第一歩

新中期経営計画『 MGC Will 2011 』（2009～2011）

【グループビジョン】

MGCグループは全ての事業活動においてCSRの実践を徹底し、グローバルな舞台で、「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指します。

【基本方針】

「Will」＝目標達成に向けた強い意志

1．コア事業の一層の強化・拡充

① 事業特性に応じた差異化戦略の実行

②「伸びる事業」「勝てる事業」 に対する経営資源の集中投入

2．新規製品の創出と育成の加速

① 成長分野へのフォーカス
～ 情報電子、環境・エネルギー、ライフサイエンス、食品・包装材料 ～

② 市場が求める機能とそれを実現する技術の融合

③ 新プロセス創出・導入によるケミカルチェーンの強化

④ グループR＆D資源の結集によるシナジーの創出

⑤「技術プラットフォーム」の活用と充実

3．持続的成長を支える＜質＞の向上

① 災害ゼロ・事故ゼロの達成、 環境負荷低減への積極的貢献

② 人材の確保と育成

③ コストダウン、生産性向上、既存技術のブラッシュアップ

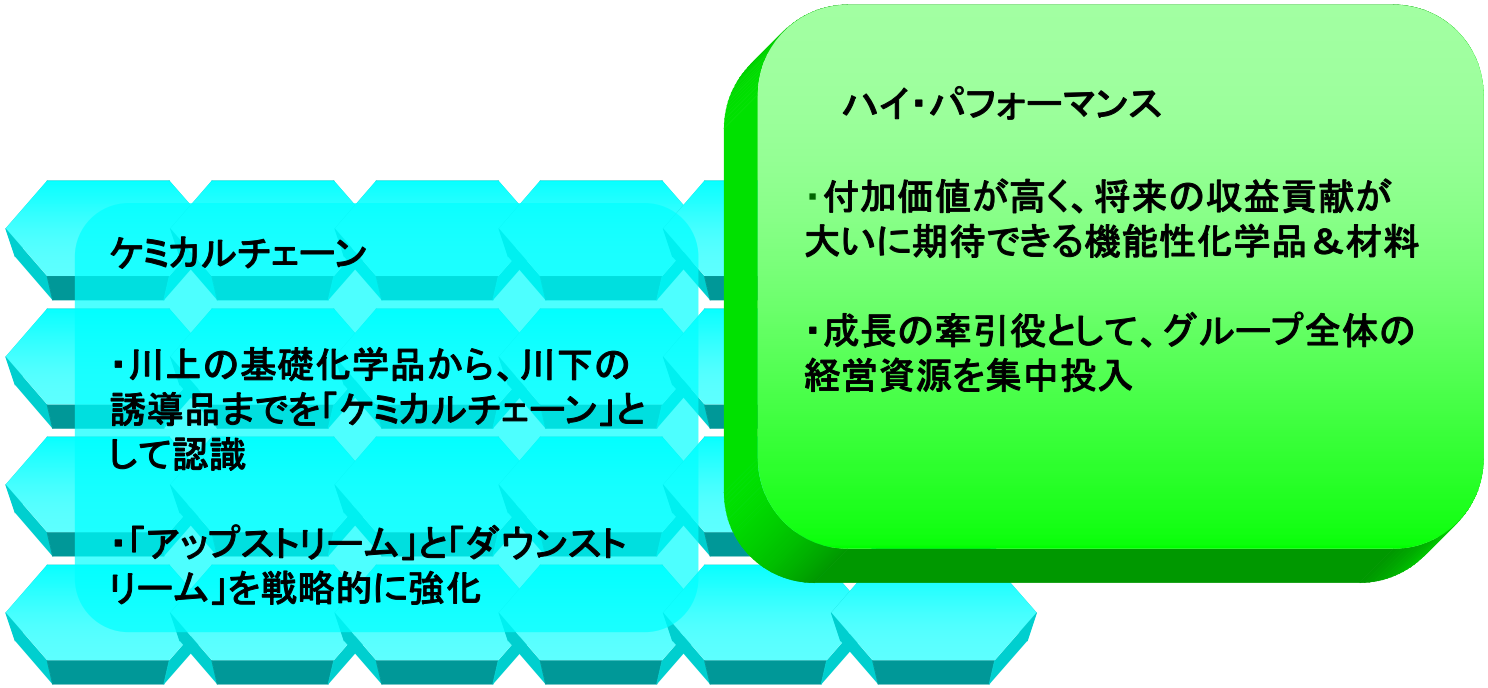
④ より強固な財務体質の構築

⑤「グローバルグループ経営」の拡充

事業特性に応じた差異化戦略の実行

- 基礎素材から機能性材料まで多岐に亘る当社の事業全体を2つの特性で区分
  「ケミカルチェーン（基礎化学品から誘導品）」
  「ハイ・パフォーマンス（機能性化学品、機能性材料）」

- 事業特性に応じた差異化戦略の実行により、コア事業を一層強化・拡充



ケミカルチェーン

【売上高】

メタノールチェーン

09年計画 → 11年計画

メタノール、ホルマリン、燃料用DME、ネオペンチルグリコール、
スピログリコール、メチルメタクリレート系、エステル系、ポリアセタール

630億円 → 1,180億円

メタキシレンチェーン

メタキシレン、高純度イソフタル酸、 メタキシレンジアミン、1．3BAC
ナイロンMXD6、マクシーブ®、制振材料、核水添製品

560億円 → 910億円

ポリカーボネートチェーン

ポリカーボネート（PC）、特殊PC、
PCハードコートシート＆フィルム、 PC偏光シート

520億円 → 590億円

過酸化水素チェーン

過酸化水素、ヒドラジン、超純過水、化学研磨液、過酢酸、水処理剤

220億円 → 270億円

ハイ・パフォーマンス

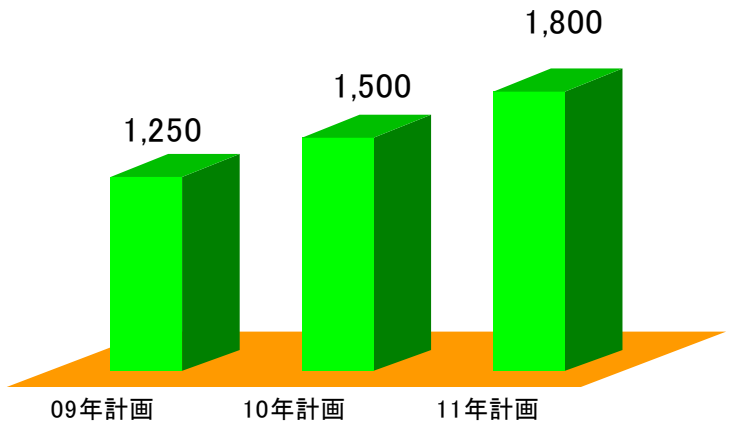
【天然ガス系化学品】
SPG-PET 、オプティマス®
特殊シアネート
Q10 /PQQ/ 特殊アミノ酸

【芳香族系化学品】
MXDA＆1.3BAC
MXナイロン、芳香族アルデヒド
核水添製品、機能性ポリエステル
高耐熱性無色透明ﾎﾟﾘｲﾐﾄﾞﾌｨﾙﾑ
ND系、AR系

【機能化学品】
SiLSI、FPD、PWB向け
HBC（ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｹﾐｶﾙ）
アダマンタン誘導体
OPE、レンズモノマー
ポリカーボネート
PCﾊｰﾄﾞｺｰﾄｼｰﾄ&ﾌｨﾙﾑ
PC偏光シート、特殊PC
ポリアセタール

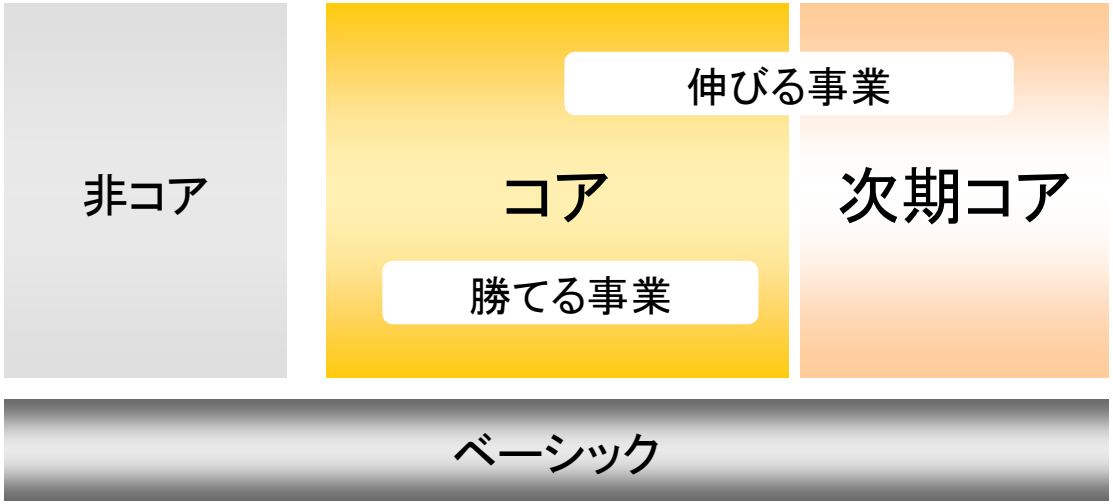
【特殊機能材】
BT系材料、LEシート
高性能エポキシ系材料
エージレス®、
ファーマキープ®、RP剤

ハイ・パフォーマンス売上高（億円）



コア事業の一層の強化・拡充

▶事業ポートフォリオの整理



コア	既に大きな売上と高い利益率を有し、将来の成長も揺るぎない製品
次期コア	将来「コア」に成り得る製品
ベーシック	コア・次期コアを支える基幹製品
非コア	現状の収益貢献度は低く、将来も大きな成長が見込めない製品

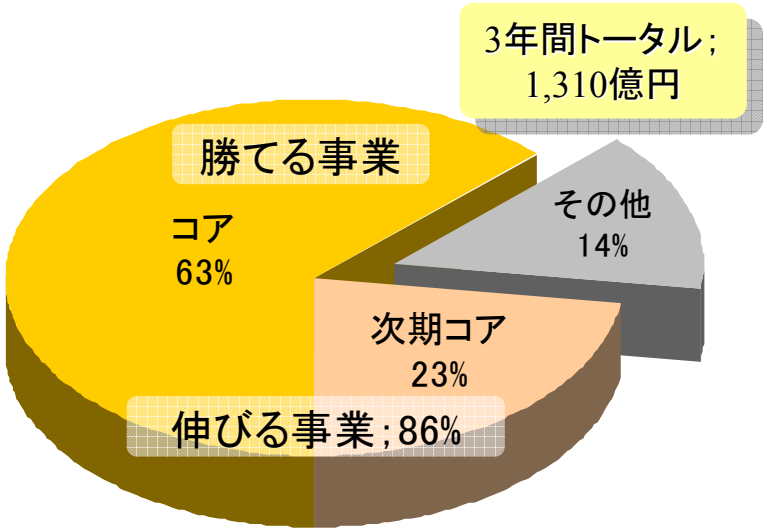
▶セグメント別の代表的なコア＆次期コア製品

	天然ガス系化学品	芳香族化学品	機能化学品	特殊機能材
コア	メタノール、NPG MMA系、エステル系	MXDA&1.3BAC MXナイロン 芳香族アルデヒド	過酸化水素、超純過水 HBC(ハイブリッドケミカル) ポリカーボネート、ポリアセタール PCハードコートシート＆フィルム	BT系、LEシート 高性能エポキシ系 エージレス®
次期コア	SPG-PET, オプティマス® 特殊アミノ酸	ポリイミドフィルム ナフタレンジカルボン酸系	特殊PC、レンズモノマー アダマンタン誘導体、OPE	ファーマキープ® RP剤、アネロパック®

「伸びる事業」「勝てる事業」への経営資源の集中投入

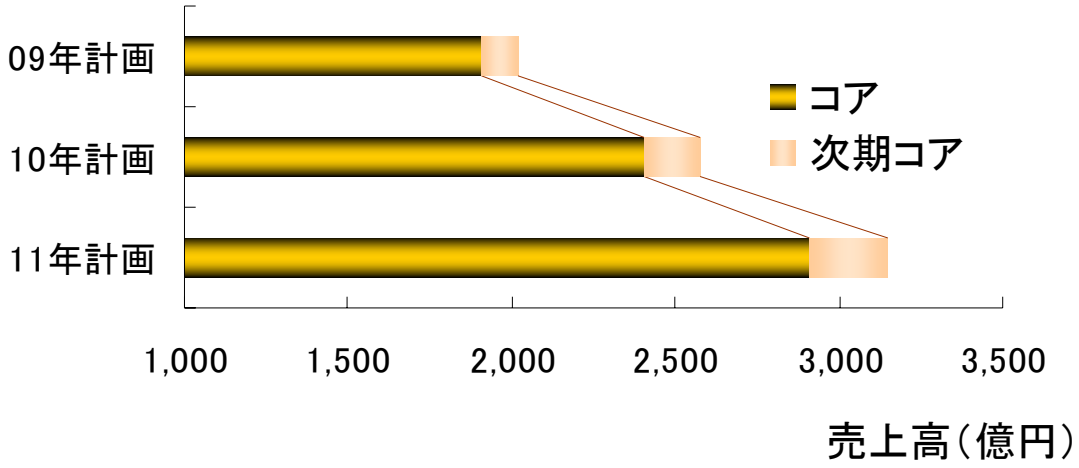
【2009～2011年　連結投融資　内訳】

＊有形固定資産・投資有価証券等の新規増加分



【主な投融資計画】

- ■メタノール新規生産拠点確保（海外）
- ■スピログリコール製造設備増設（水島工場）
- ■メタキシレン製造設備増設（水島工場）
- ■HBC（ハイブリッドケミカル）製造拠点確保（海外）
- ■ポリカーボネート新会社設立（中国・上海）
- ■ポリアセタール製造子会社設備増強（タイ）
- ■東京テクノパーク新設（東京開発センター、東京研究所）

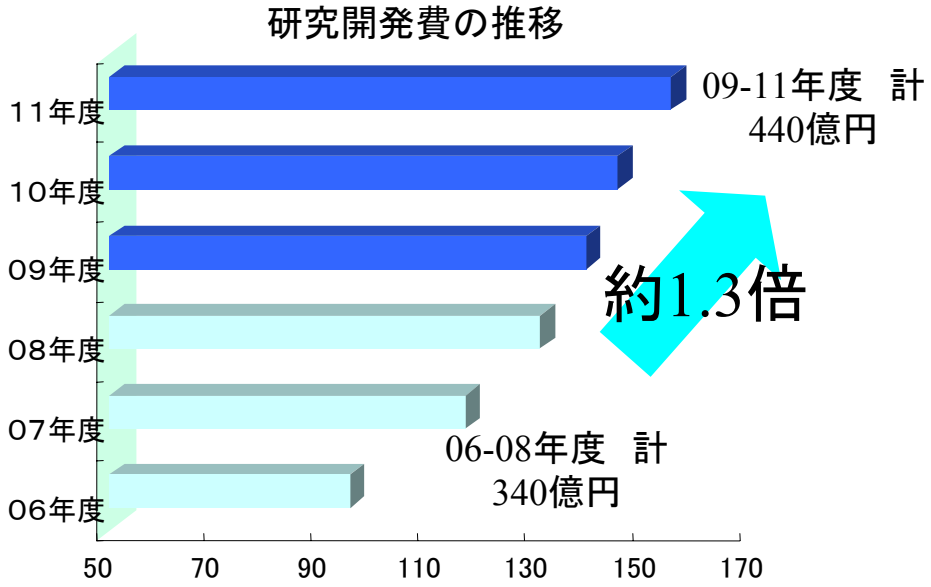


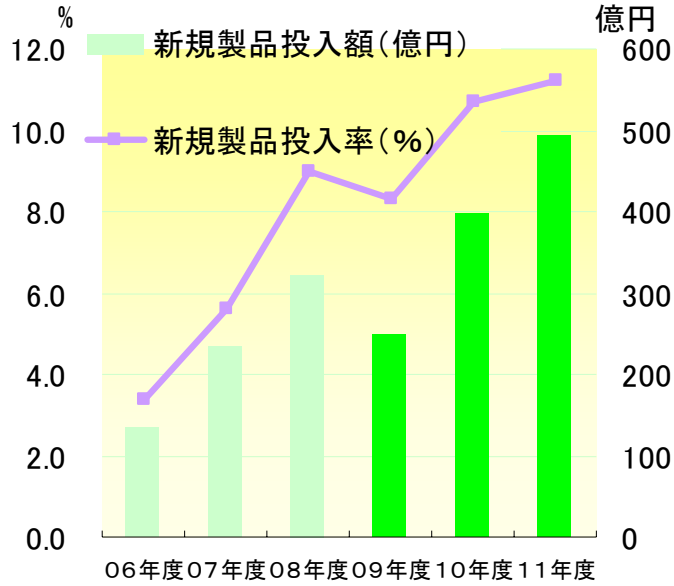
【09→11年：　コア事業の主な売上増分】

（内部自消含む売上高：億円）

メタノール	+350
BT系製品	+100
ネオペンチルグリコール	+70
MXDA/1.3BAC	+60
ポリカーボネート	+60

新規製品の創出と育成の加速





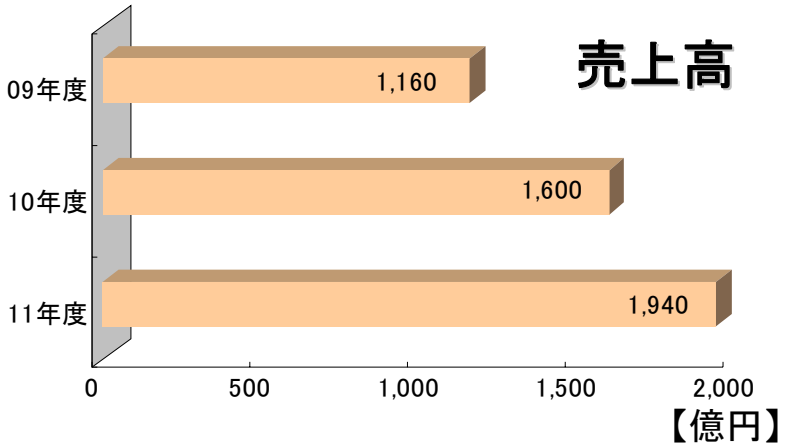
新規製品投入率
=新規製品による売上高÷全売上高
＊「新規製品」とは上市後5年以内のもの

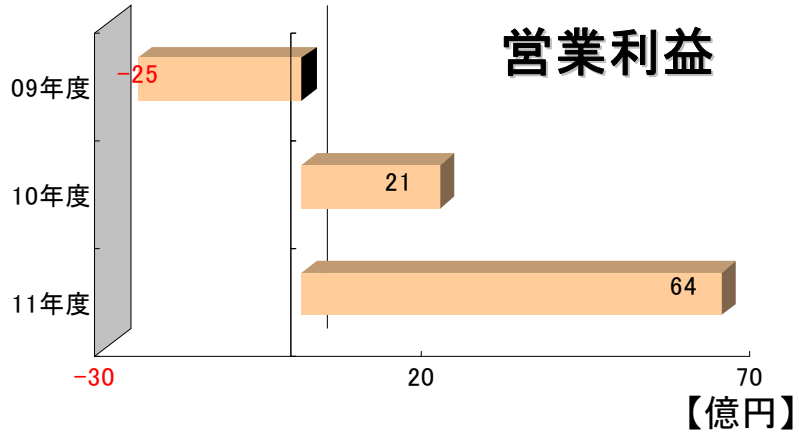
- 成長分野へのフォーカス
  ～情報電子、環境・エネルギー、ライフサイエンス、食品・包装材料～
- 市場（Market）が求める機能（Function）とそれを実現する技術（Technology）の融合

- 新プロセス創出・導入によるケミカルチェーンの強化
- グループR＆D資源の結集による**シナジー**の創出
  例）TTP（東京テクノパーク）における事業横断的テーマ、新規テーマの創出・育成

- 「技術プラットフォーム」の活用と充実

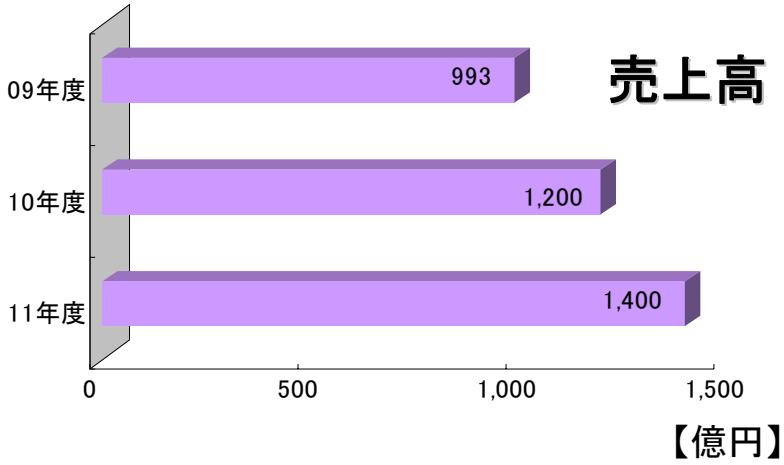
セグメントごとの計画値と戦略　～天然ガス系化学品～

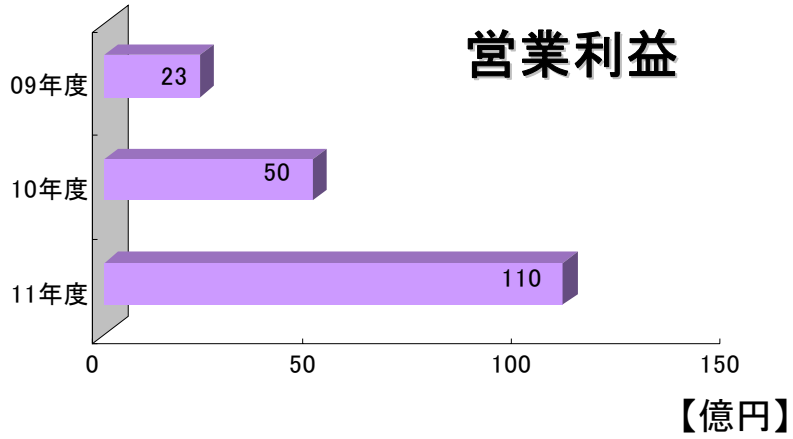




- メタノールおよびメタノールチェーンの更なる強化；
  - ・メタノール：ベネズエラⅡ期(2010/1Q)、ブルネイ(2010/2Q)の稼動、新たな生産拠点の確保　→　グローバルプレイヤーとしての地位をより強固なものへ
  - ・アミン系：国内唯一のメーカーとして優位性を活かし収益強化
  - ・MMA系、エステル系：MAA、GMA等増強により差異化を促進
  - ・ポリオール系：NPGの生産拠点グローバル化、SPG/DOGの拡販
- ライフサイエンス製品群；
  - ・コエンザイムQ10：コストダウンと高付加価値品による差異化
  - ・特殊アミノ酸：能力増強をもとに拡販を推進
  - ・PQQ：生産体制を整備し市場開発を推進
- 新規油ガス田の探鉱継続

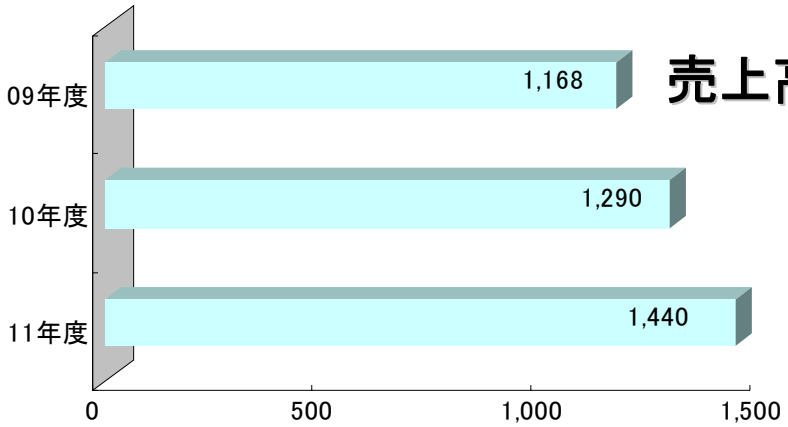
セグメントごとの計画値と戦略　～芳香族化学品～

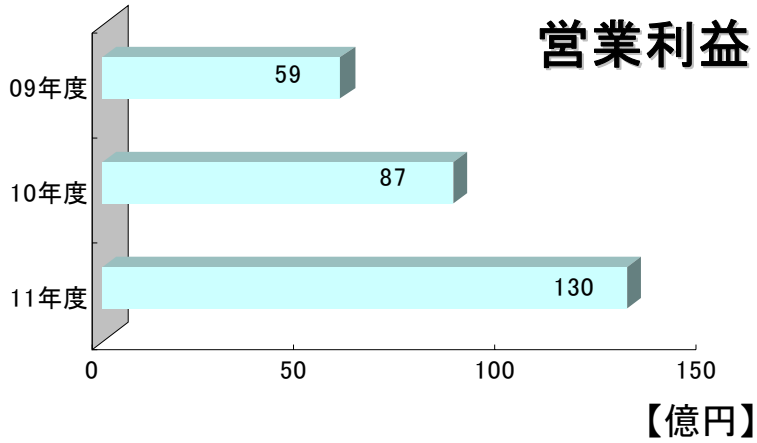




- 【メタキシレン（MX）チェーン　＋　ハイパフォーマンス】主体の事業構造へ特化
  MX：水島工場において09年度中に22万トン体制を確立
  MXDA、MXナイロン：現行製品の拡販に加え、新規ジアミン、MP6ナイロン等の新規製品の創出・実需化
  高純度イソフタル酸（PIA）：生産拠点のコストダウン、価格是正による収益改善
- MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒドに続く、次期コア＝ハイパフォーマンス品の早期育成
  ・高耐熱性無色透明ポリイミドフィルム（ネオプリム®）の市場開発
  ・高純度ナフタレンジカルボン酸及びその誘導体の市場開発と実需化
- パラキシレン、オルソキシレンチェーンについては、「協創2008」中に構築した収益安定化スキームに基づき、「ベーシック」として維持

セグメントごとの計画値と戦略　～機能化学品～



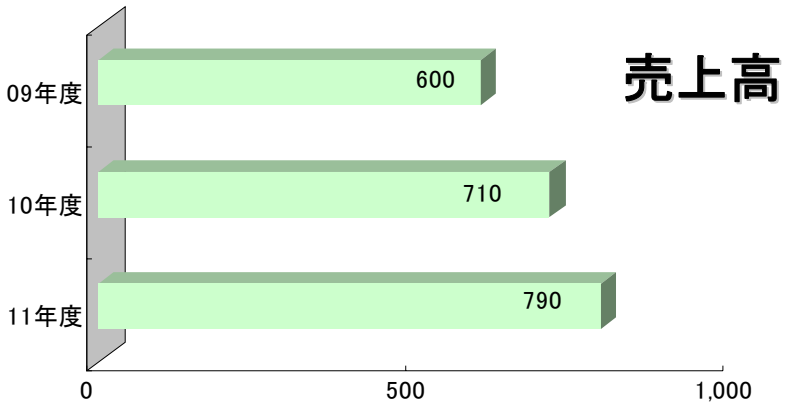


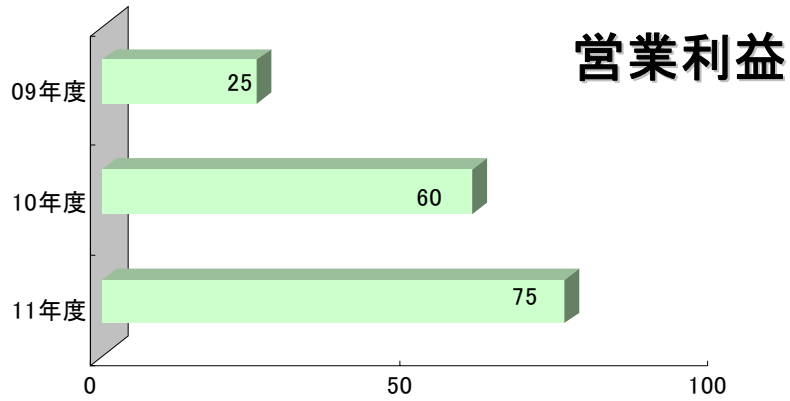
	【無機化学品事業】	【合成樹脂事業】
◆生産能力拡大による成長	過酸化水素、超純過水、超純安水	ポリカーボネート、ポリアセタール、ハードコートシート
◆デファクトスタンダード化による成長	ハイブリッドケミカル（LSI－HBC、FPD－HBC、PWB－HBC）	RENY®、 特殊PC、偏光シート
◆新規市場開拓による成長	歯牙漂白材、レンズ、アダマンタン、新規HBC	特殊PC、OPE

◆中国・上海地区におけるポリカーボネート・コンプレックス（PC：80,000t/y）新設

◆ハイブリッドケミカル(HBC）新規製造拠点　確保（海外）

セグメントごとの計画値と戦略　～特殊機能材～





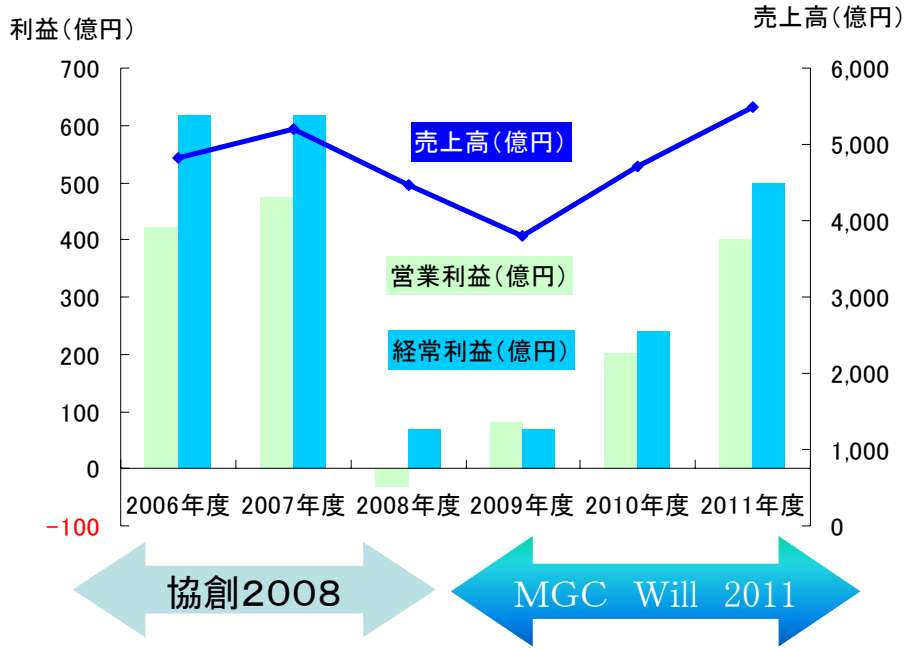
【電子材料事業】

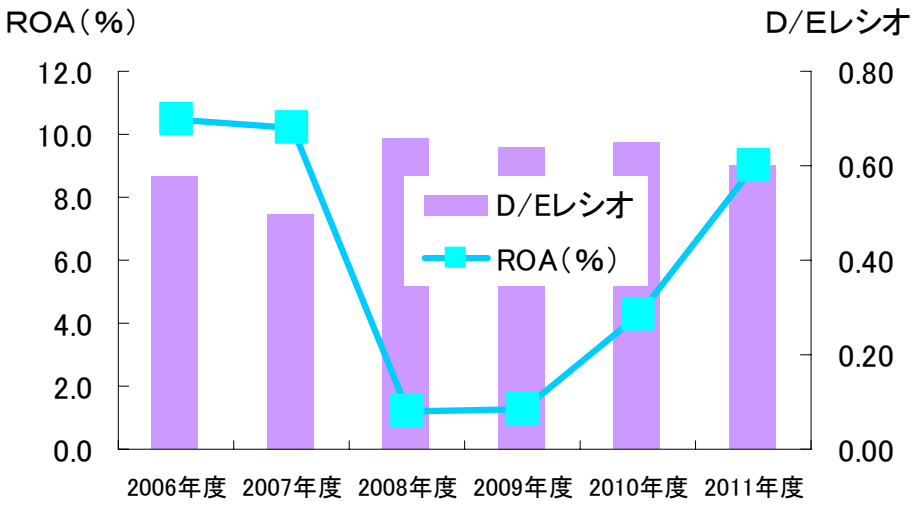
- BT系、高性能エポキシ系、LEシート；　3つのコア製品群へ経営資源を特化
- 徹底したコスト競争力の強化
- 新規製品の早期開発と市場投入
- 軽薄短小・高密度配線に対応する材料開発に注力

【脱酸素剤事業】

- 安全・安心志向の中、食品のみならず医薬・電子部品でも、鮮度・品質保持市場は拡大
- エージレス®；海外生産の拡大よる輸出競争力の強化
- 食品外分野向け市場開発の強化
  （医薬向けファーマキープ®、電子部品向けRP剤、等）

『MGC　Will　2011』数値目標　～成長軌道への回帰～





【2011年度　目標とする連結財務指標】

売上高	5,500　億円
営業利益	400　億円
経常利益	500　億円
ROA（総資産経常利益率）	9.0　%
D/Eレシオ	0.6以下

【計画前提】	2009	2010	2011
為替	90円/$	→	→
原油（WTI）	60$/bbl	70$/bbl	80$/bbl

【三菱ガス化学　グループ中期経営計画対象】
連結子会社　35社、持分法適用会社　13社

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
広報IR部（佐藤、西村）
TEL　03－3283－5041
FAX　03－3287－0833
http://www.mgc.co.jp/

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

2008年度決算および新中期経営計画『 MGC Will 2011 』説明会　参考資料

2009年5月11日
三菱ガス化学株式会社

1. 各種指標推移（連結）

（単位：億円）

	2004年度 実績	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 予想
設備投資額	186	175	295	394	351	370
（うち第2四半期累計）	72	132	147	160	193	220
減価償却費	194	188	注） 198	245	289	290
（うち第2四半期累計）	96	94	91	110	135	130
研究開発費	107	106	115	136	147	150
（うち第2四半期累計）	55	55	58	66	67	75
人員						
（年度末時点）	4,426人	4,466人	4,561人	4,686人	4,902人	5,006人
一株当り当期利益	50.4円	71.0円	86.6円	87.0円	15.3円	13.3円
ROA（総資産経常利益率）	7.8%	9.5%	10.5%	10.2%	1.2%	1.3%
ROE（自己資本利益率）	12.2%	14.5%	15.0%	13.7%	2.5%	2.3%
配当額	6.0円	10.0円	14.0円	16.0円	16.0円	12.0円
（うち第2四半期）	2.5円	4.0円	6.0円	8.0円	8.0円	6.0円

注）2006年度の減価償却費は、
特損に計上した88億円を除いた額となっております。

2. セグメント別 設備投資額・減価償却額（連結）

（単位：億円）

		2004年度 実績	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 実績
設備投資額	天然ガス系化学品	47	26	62	56	107
	芳香族化学品	29	47	75	172	106
	機能化学品	45	69	87	74	91
	特殊機能材	64	32	70	92	47
	その他	0	0	0	0	0
減価償却費	天然ガス系化学品	54	45	46	54	64
	芳香族化学品	37	36	37	52	77
	機能化学品	68	71	80	96	97
	特殊機能材	36	35	36	42	51
	その他	1	0	0	0	0

3. 経営環境

	2004年度実績		2005年度実績		2006年度実績		2007年度実績		2008年度実績		2009年度予想		メモ
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
メタノール市況（US＄/MT）	220～240	240～260	270～290	250～270	280～300	370～390	370～390	360～380	460～480	290～310	160～180	200～220	
原料キシレン（円/kg）	59	67	69	83	99	96	108	103	122	56	63	63	公示価格
ビスフェノールA（US＄/MT）	1,100～1,900	1,900～2,200	1,200～2,000	1,000～1,300	1,200～1,600	1,600～1,700	1,800～2,000	1,800～2,000	1,800～2,000	800～1,500	900～1,200	900～1,200	主要平均CIF価格
ポリカーボネート（US＄/MT）	2,000～2,400	2,500～3,200	3,200～3,300	3,000～3,300	2,900～3,100	2,400～2,750	2,600～2,850	2,400～2,850	2,450～2,850	1,900～2,450	2,000～2,400	2,000～2,400	日本からの輸出通関統計数値（FOB価格）
為替（円/US＄）	110	105	110	117	115	119	119	109	106	95	90	90	

※メタノール市況については、上期は1-6月、下期は7-12月を示す。